

## はじめに

我が国の養殖業は国民に安全な水産物を安定的に供給するうえで重要な役割を担っています。しかし、養殖業を取りまく環境は、慢性的な魚価の低迷、燃油価格や飼料原料価格の高騰等の大変厳しい状況下にあります。特に養殖生産において大きな経済的損失をもたらすものとして、近年においても新たな病気の発生や海外から侵入したと推察される病気の発生が問題となっており、今後とも予断を許さない状況です。また、養殖対象魚種の多様化・飼育技術の高度化とも相俟って疾病原因が複雑化しており、問題の解決には関係機関が一丸となって取り組む必要があります。

こうした中、当協会では、農林水産省の委託を受けて、平成20年度養殖衛生対策推進事業の一環として、増養殖魚介類に大きな被害を与えている病気を対象として、その原因の解明を始め、診断、治療、予防ならびに効果的な防疫法・養殖衛生対策等に関する調査・研究を都道府県水産研究機関および関係大学に委託して実施しました。

本書は、平成20年度に実施した調査・研究成果を取りまとめたもので、各成果が都道府県の指導機関等における病気の診断や適切な防疫指導等に活用されるとともに、魚介類の病気に関する研究の一助となることを期待します。

本調査・研究に参加いただいた都道府県水産研究機関、大学ならびに研究推進に多大なご指導・ご助言をいただいた関係各位に深く感謝申し上げます。また、研究成果等について客観的な評価や専門的視点からのご助言をいただいた独立行政法人水産総合研究センター養殖研究所 病害防除部長 佐野元彦殿、東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授 良永知義殿ならびに熊本県水産研究センター 養殖研究部長 中野平二殿に厚くお礼申し上げます。

平成21年3月

社団法人 日本水産資源保護協会  
会長 川本省自